

『湖医会賞』受賞者決定！・・・・・・ 2～6
医師確保支援センター／ドクター保険・・・・ 7
2007 年度総会資料・・・・・・ 8～9

地域医療・・・・・・ 10
学生のページ／若鮎祭・・・・ 11
LITTLE WINDOW・・・・・・ 12

2007 年度

総会のご案内

10.27. 来たれ

総会 15:00～16:00
今年は役員改選の年です

12:30～14:30
『湖医会賞』受賞記念講演会

—— 今年は4名が受賞 ——

植松 稔 氏 (医2期生)
金谷誠一郎氏 (医4期生)
角野文彦 氏 (医6期生)
河野史代 氏 (医7期生)

詳しくは2～6ページをご覧ください

会長はじめ 11 名の副会長（看護学科2名）及び 104 名の幹事（うち看護学科 24 名）の先生方が「湖医会」活動を担っています。ご自分も一助を担おうと思われる方をはじめ、一人でも多くの会員からの積極的な参加をおまちしております。
(資料は8～9ページ)

日時；
2007 年 10 月 27 日 (土)
15:00～16:00
場所；
基礎講義実習棟 2 階
A 講義室
出欠・委任は
返信用紙で！
10 月 24 日 (水) 必着

さろんど「湖医会」オープンします



16:00～18:00 (コアタイム 16:30～) / 学食

若鮎祭のときに会員が立ち寄って話せる“場”が欲しい一。
そんな要望にお応えして、新たな試みとして さろんど「湖医会」を設けます。若鮎祭に
来学する会員のみならず旧交を暖め合ってもらったり、情報交換し合ったりという
企画です。卒業生や恩師の先生は勿論、学生さんも参加自由です。

コアタイムでは、“**学内探検隊**”を募り、新しく出来た施設（保育所・新病棟など）
を中心にガイドが学内を案内いたします！興味のある方はぜひ一緒に。
限られた時間ですが、軽食とともにはずむ会話をお楽しみください。

今回で『湖医会賞』も第6回となりました。募集期間は毎年10月の「湖医会」総会の翌日から、翌年の6月末までとなっています。なかなか応募がなく心配していたところ、4名の推薦がありました。それぞれの方の経歴を拝見するといずれも、独創的でゆめぬ努力の賜物であり、かつその功績が公的に評価されている方々ばかりです。これを見ると、誇らしい気持ちになると同時に、我々も頑張らねば、と励まされます。ぜひ来年も選考に困るほどのたくさんの応募をいただけるよう、期待しております。お待ちしております！

さて、推薦者の方々には、日々の勤務に忙しい中、選考会場まで足を運んでいただき、提出された資料に基づいた熱心な推薦の弁を述べていただきました。以下は、受賞者の紹介と選考理由です。

まず植松氏（医2期生）は、治療用放射線フォーカル照射ユニットを開発し、世界初の体幹部・3次元ピンポイント照射を可能にしました。多くの臓器のガン治療に対して高い成果を上げ、国内外で多数の論文を発表。さらに近年「4次元照射装置（スーパーフォーカルユニット）」を開発。この装置によって、呼吸で動くガン病巣にも持続的なピンポイント照射ができ、正常組織のダメージを最小限に抑え、従来よりはるかに精密な治療を可能としました。これらの独創的な治療法を確立し、権威ある教科書に掲載されるに至ったことも高く評価されました。

次に、金谷氏（医4期生）は、消化器外科分野の腹腔鏡手術のエキスパートで、この分野での日本の第一人者です。特に胃がんに対する手術は国内外で高い評価を得、なかでも胃切除後の再建法は、彼が発表した通称「デルタ吻合」としてよく知られています。これらの実績から外科学会でも指導的な役割を果たしています。このように広く腹腔鏡下手術の技術向上や普及に貢献していることが評価されました。

前述の2名が臨床・福祉領域での「臨床」色が濃いのにに対し、同じ領域ではありますが、後述の角野氏・河野氏は、「福祉」色が濃いと言えるでしょう。

角野氏（医6期生）は、卒後一貫して滋賀県職員として地域の保健福祉に従事し、その活動姿勢は、常に住民の立場に立った保健福祉の構築と実践です。2年間 JICA のプロジェクトリーダーとしてケニアでも活動。その時の経験は、「医学概論Ⅰ」で滋賀医大生にも軽妙な関西弁で語られています。一昨年より全国保健所長会会長に就任し、日本の公衆衛生専門家のリーダーとして活躍中で、調査研究活動にも精力的に取り組んでおられます。地味な領域での華やかな活動が、『湖医会賞』に相応しいと評価されました。

最後に、河野氏（医7期生）は、障害を持つ弟のために医師を目指し、知的障害更正施設を鹿児島で開設した両親を支えるため、滋賀医大を離れ鹿児島大外科に入局。乳腺外科でリーダー的な存在になるも、急逝した父親から施設を継承するため、鹿児島大を退局し理事長に就任したという経歴の持ち主です。

選考委員は次の通り（敬称略）

委員長：渡辺一良（会長）

委員：野崎光洋

島田司巳

上島弘嗣（以上特別会員）

相見良成（副会長）

障害者を家族に持っていることもあり、入所者にとって真に快適な環境を提供する、という強い意志のもと、地域に開かれた施設運営を目指して努力して来た姿勢は見事です。理事としての経験は浅いものの、今後の更なる発展を後押しする意味合いも込めて授賞を決定しました。

以上様々な検討の結果、同じ領域での選考となりましたが、4名とも『湖医会賞』受賞者にふさわしいという結論に達し、幹事会で承認され、『湖医会賞』受賞者に正式に決定しました。

（文責：渡辺一良）



第6回『湖医会賞』授与式及び受賞記念講演会

日時：2007年10月27日（土）

12:30～14:30

場所：基礎講義実習棟2階 A講義室

<授与式>

12:30～ 賞状・副賞授与

<受賞記念講演会>

12:50～ 角野文彦氏 講演

演題：公衆衛生医の立場から
滋賀医大に期待すること

13:30～ 河野史代氏 講演

演題：「夢に向かって」
—福祉事業者として、医師として、
女性として、今までそしてこれから—

日時：2007年11月16日（金）

18:00～20:00

場所：基礎講義実習棟2階 A講義室

<授与式>

18:00～ 賞状・副賞授与

<受賞記念講演会>

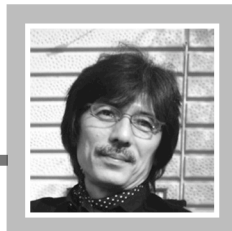
18:15～ 植松稔氏 講演

演題：放射線ピンポイント照射と
私のセレンディビティ

19:00～ 金谷誠一郎氏 講演

演題：胃癌の手術 最前線！
—腹腔鏡下胃切除—

放射線ピンポイント照射と私のセレンディピティ



厚地記念放射線医学研究所

UASオンコロジーセンター・センター長

植松稔 (医2期生)

滋賀医大を卒業してから 25 年経ちました。その間、私が母校に顔を出したのは、軽音楽部の OB として昔馴染みのメンバーと学園祭でバンド演奏したことが 2 回、卒後 10 年と 20 年の同窓会で 2 回、非常勤講師として学生の講義が 1 回です。このように、どちらかというと、卒後の母校とのお付き合いは希薄でしたが、この度、「湖医会賞」を受賞させて頂くことになり恐縮しております。

ご推薦頂きました同期生の新井良八解剖学教授をはじめ、お世話になりました皆様に心からお礼を申し上げたいと思います。

私たち 2 期生は、卒後四半世紀で年齢は 50 歳くらいですから、生まれてから卒業までの時間と卒後の時間が丁度同じくらいということになります。なんとなく節目という感覚もあって、昔を振り返ることが少し増えたのですが、本当に多くの偶然の出会いに支えられていることを感じます。今回は、卒後の私のセレンディピティの幾つかをご紹介しますと思います。

卒業した 82 年に慶応大学の放射線科に入局したのですが、そこで指導して頂いたのが、十数年後に「患者よ、がんと闘うな」というベストセラーを上辞し「がん論争」を巻き起こすことになる「近藤誠先生」でした。そのころの放射

線治療のイメージは、「末期癌の症状を緩和する敗戦処理投手」といったものが多かったと思います。しかし、近藤先生は、悪性リンパ腫や頭頸部癌、子宮頸癌などに完治を目指した放射線治療を実践していました。臨床医としての出発点で、完治を目指した治療に出会えたことは本当に幸運でした。

数年後、近藤先生は「乳房温存療法」に取り組み始めます。しかし、多くの外科医が「日本人に温存はむかない」と思っていた時代ですから、患者さんはほとんど来ません。温存療法の価値はわかっていても、実地の勉強は進みませんでした。そんな 80 年代の終わり、乳癌学会の前身、乳癌研究会を慶応の放射線科が主催し、ゲストとして乳房温存療法の世界的な権威、ハーバード大学放射線科のハリス教授を招聘しました。たまたま滞在中の世話係を任命された私は、食事の際にお願いして 90 年のボストン留学が決まりました。

ですから、ボストンでは乳癌の勉強が主目的でした。しかし、それだけではありません。留学前には何も知らなかった、脳転移に対する新しい治療法「radiosurgery」にも出会うことができたのです。脳転移がみごとに消失するのを見て、早期癌の原発巣の治療にも

使いたいなと考えるようになったのが、ピンポイント照射の始まりです。

帰国後も、偶然が重なって、放射線治療医が一人もいない防衛医大に講師として赴任することになり、赴任してみたらそこには大変に優秀な技師さんがいました。「自分ひとりで決断ができてサポートしてくれる人は優秀」という環境が、まさか防衛庁の機関にあるなんて、これも予想していませんでした。

このような偶然の重なりなしに、ピンポイント照射は確立できなかったと思います。現在も、脳外科医である「厚地政幸先生」との出会いから、縁もゆかりもない鹿児島に自分の施設を立ち上げて頂き仕事をしています。

そして、振り返ると、それもこれも 31 年前、国立大学の医学部で唯一、文系科目の比重が軽い入試をしてくれた滋賀医大との出会いから始まったのだなあと、つくづく感じております。本当にありがとうございました。



患者フレンドリーな手術を目指して



姫路医療センター 内視鏡外科医長

金谷誠一郎 (医4期生)

4期生、1984年卒の金谷と申します。この度の「湖医会賞」の授与、身に余る光栄に存じます。卒後、外科医になって以来の目標が「同僚に評価／信頼される外科医になる」ことでした。そういった意味では、外科医である後輩（5期生、福井赤十字病院 藤井秀則先生）に推薦され、また、OBの先生方によって決定された今回の受賞は、本当にうれしく感謝しています。

今回の受賞のきっかけともなった腹腔鏡下胃切除は、良性疾患に対するものが1992年、胃癌に対するものが1994年に報告された新しい治療法です。昨年、慶応大学病院で王貞治監督に施行され一躍有名になりました。傷が小さく美容面での優位性ばかりがクローズアップされていますが、他の利点も多く、腹腔鏡を用いた治療法の開発は、100年を超える外科の歴史の中でも革命的な出来事です。

私は、大学を卒業後、滋賀医科大学第2外科・京都桂病院で初期研修を行い、1990年からは京都大学第2外科に所属し、1995年より姫路医療センターに勤務しています。1993年頃から胆嚢摘出術を手始めに腹腔鏡手術を行っていましたが、姫路では積極的にその分野を行う外科医がいなかったこともあって、本当にコツコツと症例を重ねながら守備

範囲を広げてきました。

腹腔鏡下での胃切除の場合、標本の摘出と再建に4～5cmの小切開が必要とされる術式が一般的ですが、私はこれを、当初から小切開を置かない完全鏡視下での手術にこだわって行ってきました。当然、安全性が第一であることはもちろんですが、胃癌に対して腹腔鏡手術を行う場合は、その根治度も方針も従来行ってきた開腹術と同等以上であることが保証されなければなりません。症例ごとに改良を加え、時にそれを発表し、批判／意見を頂戴しながら、また改良を加える、と言った具合で術式が完成していきました。今では、創は1cm程度のものが5カ所のみ、内1カ所、臍部の創を拡大して標本を摘出する術式で、いわゆる定型手術とされる2群リンパ節郭清までの手術、つまり、進行癌に対する通常の手術までが可能となりました。術野を拡大視しての作業のため、リンパ節郭清の精度も上がり、また、合併症も開腹術に比べて著しく減少しています。なによりも患者さんが術後に楽で回復も早い、患者フレンドリーな術式で、近い将来必ず標準術式になるものと確信しています。

「四十にして惑わず」「五十にして天命を知る」と言います。確かにそうかも知

れません。ただ私の場合、これまで無心に取り組んだ腹腔鏡手術によって、学問を超えた仲間も増え、気が付いたらその道のパイオニアの一人になっていたと言うのが現状です。胃癌に対する腹腔鏡手術による治療の波はまだ出現したばかりです。全国で志を同じくする仲間が力を合わせ頑張る必要があります。今回の「湖医会賞」の受賞を励みに、さらなる飛躍を目指したいと思います。

最後になりましたが、今回の受賞に際して力添えいただいた関係各位に深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

これまでの受賞者

- 第1回 埤田和史氏
井上慶郎氏
- 第2回 青木裕彦氏
茶野徳宏氏
- 第3回 小山恒男氏
猪木健氏
- 第4回 藤宮峯子氏
塩入俊樹氏
- 第5回 岩本あづさ氏
西村栄美氏

ある公衆衛生医の独り言 ～「小医」から「中医」へ～



滋賀県東近江地域振興局地健康福祉部長

角野文彦 (医6期生)

今年度の「湖医会賞」を受賞させていただきことに感謝を申し上げます。今回を含めて受賞者の方はほとんどが臨床現場や教育現場で活躍されている方々です。私のような行政分野からの受賞は初めてではないでしょうか。医学部を卒業して公衆衛生分野に進むものは教育職、研究職を含めても1%前後に過ぎず、極めてマイナーです。そんなマイナーな分野から選んでいただいたことを、非常に光栄に思うとともに驚きを禁じ得ませんが、同じ分野で活躍する仲間にとって大きな励みになることを願っています。

マイナーといってもそれはあくまでも直接従事する数が少ないという意味のマイナーであって、中身はメジャーだと思います。なぜなら「公衆衛生」は憲法第25条や医師法第1条に出てくる非常に大きな意味のある言葉だからです。憲法第25条では国民の生存権を保障し、それを担保するためには、「国はすべての生活部面について社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上および増進に努めなければならない」と書かれています。国はその義務を果たすために、様々な施策を考えていますが、その一つが医師法です。第1条で医師の任務を次のように定義しています。「医師は、医療及び保健指導を掌ることによって公衆衛生の向上及び増進に寄与し、国民の健康な生活を確保するものとする。」すな

わち、国は国民の生存権を保障する義務の一翼をわれわれ医師に課しているわけです。これを承知で医師資格を取り仕事をしている人がどれくらいいるでしょうか。そう言う私も仕事を始めるまで知りませんでした。が・・・。

このように大きな意味を持つ「公衆衛生」という言葉が近頃は「地域保健」という言葉に置き換えられる傾向にあります。しかしこれは間違いで、「地域保健」は「公衆衛生」の一部であって、イコールではありません。ヒポクラテスが考えたように、自然環境や生活環境を含んだものが「公衆衛生」であり、我が国においても一昔前まではこの広義の意味の「公衆衛生」を（行政）医師が担っていました。しかし、今では機能分化が進み、様々な職種の人それぞれが得意分野の中で公衆衛生活動をしています。では、今の医師は何をすればいいのか。高度な医学研究とそれによるところの診断及び治療方法の確立は当然なされるべきことです。しかし、大半の医師が行うべきことは「地域保健・医療」です。

「地域保健・医療」をするとは「小医」ではなく「中医」になることです。人々は病気にならないことを願い、病気になっても治ることを望みます。それは健康に生きたいからではなく、人生を豊かに過ごしたいからです。人生の目的は健康ではなく、QOLの向上です。小医は人々の健康のお

手伝いをしますが、中医は人々が願う豊かな人生を支援します。全ての病気が予防可能であり治せるのなら、小医だけで十分ですが、現実にはそうではありません。不治の病や一生障害を伴う病気はいくらでもあります。しかし、社会環境によってたとえ病気や障害があっても豊かな人生を送ることはできますし、我が国は少しずつですがそのような環境が整いつつあります。この環境を知り、それを利用するのが中医です。

地域にどのような制度・サービスがあり、人々の生活を支えるどんな職種の人がどこにどれだけ存在しているかを知ることです。この環境の中に身を置いて、患者さんをこの輪の中に導けばそれでいいのです。輪の中心は患者さんであり、決して医師ではありません。医師は専門性を十分に発揮して他機関、他職種の人たちと連携を持って、患者さんの人生を支えるのです。このような中医を育てる卒前教育が滋賀医大で行われ、滋賀医大の卒業生が我が国を変えてくれることを期待いたします。

最後になりましたが、私を育てていただきました小児科学教室の島田前教授はじめ同教室の諸先輩、滋賀医大の先生方に厚くお礼を申し上げます。



“夢に向かって” 知的障害者を世の光に



社会福祉法人信成会理事長

河野史代 (医7期生)

第6回「湖医会賞」を受賞させていただくこととなり大変光栄に思っております。推薦いただいた九嶋先生、選考委員の皆様、ならびに湖医会関係各位に心より感謝申し上げます。この栄誉に応えるべく精進していききたいと思います。

さて、私の現在は滋賀医大の卒業生としてはかなり異色なのかもしれません。私は2000年5月から社会福祉法人信成会の理事長を務めております。また、乳腺外科医として非常勤で勤め、家庭では主婦であり6歳、4歳、2歳の3人の子供の母親と知的障害者の妹の保護者でもあります。当法人は知的障害者更生施設「ふるさと学園」を本体施設として、入所・通所施設支援事業に加えて短期入所および日中一時支援、居宅介護、行動援護、移動支援、相談支援などの事業を行っております。入所定員40人、通所定員18名と比較的小規模ですが、入所・通所利用者59名とショートステイ利用者約50名と30数名の職員を預かり管理することはかなりエネルギーを要することであり、毎日がハラハラドキドキであります。そんな今日の私は弟の存在なしでは語れないものです。弟は2歳年下で、私にとって物心つく頃から常にそばにいる存在でした。重い知的障害と虚弱な身体そして喘息という重荷を生まれながらにもっていましたが、本人はもちろんそのようなことを悲観

する能力もなく常に天真爛漫、つぶらな瞳をキラキラさせていました。両親と私はよく弟のことを「きつと星から来た子よね」と話し、かけがえのない存在として大切にしていたものでした。私は幼い頃から「弟のためにお医者さんになりたい」と言っていて、医学部進学にあたってはずいぶん進路指導の先生泣かせてした。入学できたものの理系科目には苦しみ、いまだに物理が理解できない夢でうなされることがあります。弟を生涯面倒みるために父は脱サラし柔道整復師となりましたが、弟が輝ける場がないことがわかり、施設を作ることが家族の夢になりました。弟の死という試練を乗り越えようやく開園することができましたが、開園5年を前に母が亡くなり、翌年父が急死してしまいました。私は鹿児島大学第一外科に入局し10数年、乳腺外科医として「さあ、これから」という時期で、学会帰りの空港で父が倒れたとの一報を受けたその時から状況が一転し現在に至っています。施設の実務にほとんど関わっていませんでしたので一から勉強でした。今まで無事務められてきたのは、利用者やご家族、職員、周囲の方々のおかげであり心から感謝しています。振り返ってみるとその時その時でごく自然に自分の夢に向かってきたような気がします。医学部に進んだこと、鹿児島で外科医になったこと、乳腺外科をライフワーク

にしたこと、施設を引き継いだこと……。その都度私を理解し応援してくれる友人の存在は本当にありがたいものです。

「夢に向かって」は病床で母が作詞した学園歌のタイトルです。今あらためて、常に夢を持ち続けそれに向かって積極的に生きることの難しさと尊さを、教えてくれているような気がします。誰でも何においてもシナリオ通りにならないことは必ずあります。そんな時自分に話しかけてみて下さい。純粋な気持ちになって！心の原点に沿って行動すれば必ず道は拓ける、すべての人や物事の中には意義があり、出会いによって自分は成長できるのだ、と信じる。私は、福祉事業者、医師、知的障害者の家族、母親、それぞれの自分を時には切り離し時には融合させて行動していますが、そんな自分にこそできることがあると思っています。これは一見世間のお世話になるばかりの知的障害者を家族に持ちその存在によって生かされてきた、という実感からきています。ただ自然に無垢に生きていながら、周り人の人生の道しるべになれる知的障害者ってすごい、と思いませんか？周囲の人にエネルギーを与えられるのです。私はこの方たちが「世の光に」なれる場を常に模索しています。



滋賀県の勤務医募集について 湖医会会員の皆さんにお知らせとお願い



滋賀県健康福祉部医師確保支援センター

顧問(滋賀医科大学名誉教授)

松田 昌之

皆さんご存じのように一部の地域を除いて全国的に医師不足が社会問題になっています。特に産科、小児科で病院勤務の医師不足が顕著になってきており、滋賀県も例外ではなく地域医療が崩壊の危機に晒されています。そこで県としてこれまで行ってきた医師確保のための事業をさらに推進するため医師確保支援センター（センター長 健康福祉部 苗村光廣技監）が設けられ、私が顧問としてお手伝いを仰せつかりました。よろしくお願い致します。

勤務医不足に関しては根本的には国の医療政策が変わらなければどうにもならない点は多々ありますが、滋賀県として地域医療を支えるため種々の方策を講じています。その一つとして今年度から奨学金制度をはじめました。対象は滋賀医科大学および県内の公立・公的病院で臨床研修を受けており研修修了後県が指定する病院の産科・小児科・麻酔科に勤務する意志のある医師、すでに産科・小児科・麻酔科で専門研修中の医師、および県外の病院に勤務中で医師免許取得後5年以上経過し滋賀県が指定する病院の産科・小児科に勤務する意志のある医師です。さらに、医学部の3回生で卒業臨床研修

修了後に県が指定する病院の産科・小児科・麻酔科に勤務する意志のある学生に対しても修学資金の貸付制度を始めました。別掲の表を参照してください。また、女性医師の働きやすい環境づくりとして、女性医師職場復帰支援事業、および保育支援事業を行うことになりました。子育てが一段落して職場復帰希望のある女性医師（診療科を問わず）に対する復帰時の費用補助、および子育てしながら勤務する女性医師に対する保育費用の補助です。滋賀県の医療を向上させるために、湖医会会員の皆さんにはぜひご協力をいただきたく、お願いする次第です。

※別紙1 「平成19年度 貸付金制度の概要」をご覧ください。

連絡先：滋賀県健康福祉部医師確保支援センター
松田、森井

電話077-528-3638 Fax 077-528-4863

e-mail:mmatsuda@belle.shiga-med.ac.jp

『医師賠償責任保険』 の加入窓口になります!!

会員の
みなさんへ

昨年まで滋賀医大附属病院で取り扱われていました東京海上日動火災保険(株)『医師賠償責任保険』について、来年の募集から「湖医会」が団体契約の窓口になります。団体契約とすることにより、100名以上の加入があった場合は団体割引の適用が可能となります。

例年学内で研修する新人ドクターには、採用時オリエンテーションの際にご加入の案内がありましたが、今後は、より早い時期（国試説明会の日）にオリエンテーションを行い、学外で研修を受ける滋賀医大卒業の新人ドクターにもご加入いただける予定です。

団体の加入者が200人以上になると、割引率がさらに大きくなります。一人でも多くの方のご加入をお待ちしています。また既契約者の加入も大歓迎です。

次号湖都通信(2008年2月発行予定)で詳しくご案内します

1, 2006年度事業報告

- 1, 湖都通信の発行 52号～54号を発行した
- 2, 新たな事業
 - 1) 会員へのサービス・『湖医会メール』・メールアドレスを登録済みの会員に、会員・大学・『湖医会』からの情報を配信した。将来的には会費完納者と未納者とでサービスの差を付けることにより会費納入率のアップを図る
 - 2) 病院情報サービス・会員が勤務・経営する病院・医院からの求人・宣伝を有料で行う。2病院が登録。
- 3, 湖医会賞
 - 1) 06年度湖医会賞授与式・講演会・06.10.28 若鮎祭と共催
 - 2) 07年度湖医会賞受賞者決定・07.7 4名が決定
- 4, 湖医会カードへの援助・カード年会費負担(@¥1,312、家族会員¥420) 総額¥100,447
- 5, 同期会を開催した
 - ・卒後20年同期会・医6期生(07.2.10、琵琶湖ホテル)¥100,000の補助
 - ・卒後10年同期会・医16期生(07.2.10、琵琶湖ホテル)¥100,000の補助
 - ・卒後5年同期会・看5期生(07.2.10、dishes) ¥50,000の補助
- 6, 学生との関わり
 - 1) 若鮎祭新旧実行委員長・副委員長、新旧体育会長と『湖医会』役員との意見交換
 - 2) 卒業祝賀会を学生と共同運営
 - 3) 「西医体」応援キャンペーン・14名からの寄付は合計¥90,000
 - 4) 活動の支援

若鮎祭と『湖医会賞』講演会の共催。実行委員会へ寄附¥200,000／卒業祝賀会を主催。¥100,000／新入生歓迎委員会への援助金¥100,000／看護学科卒業生と学生の交流懇談会への援助金¥50,000
 - 5) 奨学金制度(『湖医会奨学金』(3名)と『藤原よしみ奨学金』(7名))・計10名(重複2名)が決定
 - 6) その他

新入生オリエンテーションで『湖医会』の説明をした／関東支部会への参加案内／その他
- 7, 大学との関わり
 - 1) 寄附・滋賀医学国際協力会へ寄附¥100,000
 - 2) 会議に参加・関連病院長会議／滋賀医学国際協力会／経営協議／学外有識者会議

- 3) 行事に参列・卒業式／入学式
- 4) 協力・滋賀医学国際協力会ニュース等の発送(和仁会から依頼)／依頼のある各部署へタックシール等の提供(所定の手続きを踏んでもらう、電子データとしては提供しない)
- 8, 部会への援助・関東支部会に¥100,000の援助
- 9, その他

2, 2007年度事業計画(案)

- 1, 湖都通信の発行 55号～57号を発行予定
- 2, サービス事業
 - 1) 会員へのサービス・『湖医会メール』の配信をより充実させる
 - 2) 病院情報サービス・会員が勤務・経営する病院・医院に働きかける。
 - 3) 新たに「医師賠償責任保険」「看護師賠償責任保険」加入者のとりまとめ窓口になる。今年度から11月の国試説明会で勧誘する。卒業生への案内は次号湖都通信(2008.2月末)で行い、申し込みは3月末。保険開始は5月1日から。集金は代行会社に依頼。
- 3, 規約の整備
 - 1) 役員の選出方法に関するもの
 - 2) 学生正会員に関するもの
- 4, 湖医会賞
 - 1) 07年度湖医会賞授与式・講演会・07.10.27(土) 角野氏・河野氏 07.11.16(金) 植松氏・金谷氏
 - 2) 08年度湖医会賞受賞者の選考、決定・08.7
- 5, 湖医会カードへの援助・カード年会費負担(@¥1,312、家族会員¥420)
- 6, 同期会を開催
 - ・卒後20年同期会・医7期生(08.2.2、琵琶湖ホテル)¥100,000の補助
 - ・卒後10年同期会・医17期生(08.2.16、琵琶湖ホテル)¥100,000の補助
 - ・卒後5年同期会・看6期生(08.2.9) ¥50,000の補助
- 7, 学生との関わり
 - 1) 文化祭応援キャンペーンの実施・07.10
 - 2) 国試説明会で「医師賠償責任保険」「看護師賠償責任保険」加入の案内
 - 3) 卒業生祝賀会を学生と共同運営・08.3.25
 - 4) 「西医体」応援キャンペーン・08.7
 - 5) 活動支援

若鮎祭と『湖医会賞』講演会の共催。実行委員会へ寄附¥200,000／卒業生祝賀会を主催。¥100,000／新入生歓迎委員会への援助金 ¥100,000／看護学科卒業生と学生の交流懇談会への援助金¥50,000
 - 6) 奨学金制度(『湖医会奨学金』と『藤原よしみ奨学金』)・規定を見直し実施する
 - 7) その他

新入生オリエンテーションで『湖医会』の説明をする／関東支部会への参加案内／その他
- 8, 大学との関わり
 - 1) 寄附・滋賀医学国際協力会へ寄附¥100,000
 - 2) 会議に参加・関連病院長会議／滋賀医学国際協力会／経営協議会／学外有識者会議
 - 3) 行事に参列・卒業式／入学式
 - 4) 協力・滋賀医学国際協力会ニュース等の発送(これは和仁会)／依頼のある各部署へタックシール等の提供
 - 5) 文部科学省の平成19年「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に選定された「地域「里親」による医学生支援プログラム」の実施への協力
- 9, 支部会への援助・関東支部会に¥100,000の援助
- 10, 「医師賠償責任保険」・「看護師賠償責任保険」の実施
- 11, その他
 - 1) 集金代行会社による「湖医会」年会費の自動引き落としを検討することになった。

第45回幹事会兼2006年度第3回常任幹事会 報告

日時:2007年9月13日

- 1, 総会資料の検討
 - 1) 2006年度事業報告について
 - 2) 2007年度事業計画案について
 - 3) 2006年度会計報告について
 - 4) 2007年度予算案について
- 2, 役員改選について

今後に向けて選出方法の見直しの提案があった。
- 3, 「医師賠償責任保険」の進捗状況が説明され、実務を進めryことになった。
- 4, その他
 - 1) 会則・規定の整備
 - ・学生正会員化に伴う権利と義務について、今後会則の変更も含め検討する。
 - ・永年功労者表彰規定・『湖医会』創立30周年に向けて検討する。
 - 2) 奨学金規定の見直しを行う。
 - 3) 「湖医会」年会費の自動引落し化について議論された。

2006年度 会計報告

＜収入の部＞		＜支出の部＞	
前期繰越費	6,852,800	事務費	600,000
本年度会費(郵便局)	5,600,000	会議費	100,000
〃(滋賀銀行)	2,000,000	記念品費	180,000
カード提携手数料費	80,000	渉外費	100,000
広告費	450,000	備品費	150,000
		定期刊行物費	1,800,000
		通信費	500,000
		寄付費	300,000
		人件費	4,500,000
		退官教授祝賀費	40,000
		会員慶弔費	30,000
		カード補助費	100,000
		同期会補助費	250,000
		支部補助費	100,000
		湖医会賞費	1,100,000
		卒業祝賀会費	260,000
		新入生歓迎会費	100,000
		看護学科交流会費	50,000
		同窓会館設立準備費	200,000
		記念事業等積立費	150,000
		名簿積立準備費	150,000
		雑費	50,000
		予備費	300,000
		次期繰越費	3,872,800
計	14,982,800	計	14,982,800

2007年度 予算案

＜収入の部＞		＜支出の部＞	
前期繰越費	5,453,913	事務費	563,960
本年度会費(郵便局)	7,305,640	会議費	43,256
〃(滋賀銀行)	2,498,563	記念品費	156,870
カード提携手数料費	83,327	渉外費	21,200
広告費	450,000	備品費	115,974
協賛費	40,000	定期刊行物費	1,498,784
雑益費	316,910	通信費	467,640
医6期、16期同期会寄付		寄付費	300,000
卒業祝賀会寄付		人件費	4,283,677
病院情報サービス		退官教授祝賀費	20,000
発送手数料		会員慶弔費	7,759
利息他		カード補助費	100,447
		同期会補助費	108,610
		支部補助費	85,765
		湖医会賞費	531,645
		卒業祝賀会費	257,000
		新入生歓迎会費	100,000
		看護学科交流会費	50,000
		同窓会館設立準備費	200,000
		記念事業等積立費	150,000
		名簿積立準備費	150,000
		調査費	0
		雑費	8,696
		予備費	74,270
		次期繰越費	6,852,800
計	16,148,353	計	16,148,353

2006年度 特別会計報告

記念事業積立費

収入の部		支出の部	
前年度繰越費	795,431	残高証明手数料	315
同窓会より繰入	150,000		
預金利息	918	次年度繰越費	946,034
計	946,349	計	946,349

名簿発行積立費

収入の部		支出の部	
前年度繰越費	702,827	残高証明手数料	315
同窓会より繰入	150,000		
預金利息	811	次年度繰越費	853,323
計	853,638	計	853,638

同窓会館設立準備費

収入の部		支出の部	
前年度繰越費	3,103,664	残高証明手数料	315
同窓会より繰入	200,000		
預金利息	3,579	次年度繰越費	3,306,928
計	3,307,243	計	3,307,243

2006年度 奨学会計報告

「湖医会」奨学金

収入の部		支出の部	
前年度繰越	3,193,904	振込料金	1,120
寄付	24,087	奨学金貸与	360,000
同期会寄付	390,000	残高証明	500
奨学金返還	480,000		
収入 計	4,087,991	支出 計	361,620
		「湖医会」奨学金残	3,726,371

「藤原よしみ」奨学金

前年度繰越	399,300	奨学金貸与	300,000
		藤原奨学金残	99,300
奨学金収入計	4,487,291	奨学金支出計	661,620
		現在高(繰越)	3,825,671

『湖医会』メール

ニセ者横行！

以前から度々メールや湖都通信でお知らせしていますが、ニセの事務員や会員が、多数の会員宅に電話をして、自宅住所や勤務先を聞き出そうとしています。例えば、
○同窓会長や先輩を名乗り勤務先に電話。住所変更の用紙を送ったが、返事が来ていないので私から事務員に言うておくから(あるいは自分が幹事だから)連絡先を教えてください。
○同窓会事務員と名乗る人から同様に「変更用紙が返ってこないで連絡先を教えてください」とたいへん紳士的に優しい口調で尋ねられ、思わず言ってしまう。
○親元に電話して「同窓会の者だ为名簿を作るのに、今日の5時までに連絡先を言うように」と急がせて聞き出そうとする。等々

- ◆「湖医会」から電話で住所等の連絡先をお聞きすることはありません。→このことが頭をよぎり怪しい!と気づいた人もおられます。
- ◆「ニセ同窓会」からの問い合わせには即答しないで、「今忙しいので後でかける」と相手の連絡先を聞いて電話を切ってください。そして聞いた連絡先を「湖医会」事務局までお教えください。
- ◆おかしいな!と思ったら事務局に連絡してください。同期の方に集中的にかかる場合が多いです。最近「こんな電話がかかってきました」との電話や「先ほど電話で尋ねられた住所ですが・・・」というメールも多くなって来ています。

以上充分にご注意ください!!

西医体応援御礼

7月末から始まった第59回西日本医科学学生総合体育大会は、ラグビー部初優勝・ハンドボール部3連覇、ボート部総合優勝・サッカー部と女子テニス部が3位等の素晴らしい結果で終了しました。今回初めて「湖医会」から学生支援の一環として、「西医体応援キャンペーン」と銘打ち、会員の皆様に協力をメールで呼びかけたところ、おかげさまで、14名の方から応募(¥90,000)があり、各クラブが希望する品物に換えて渡すことができました。

また、ある会員は「西医体競技日程」のメールを見て、「自分が所属していたクラブではないが、地元で試合があるようなので応援に行きたい」と準硬式野球部の試合を応援、夜は宿舎を訪ねて激励してくださいました。その後自分がOBであるラグビー部の試合にも遠方まで応援に駆けつけられたそうです。他にも、サッカー部の先輩があたかも実況中継のごとく試合の様子をメールに書いてくださったり「元気をもらった」「湖医会メール」のおかげで応援に行くことができた」等のうれしい「お礼メール」も「湖医会」事務局に届きました。また各クラブからの結果速報も随時配信しました。

このような先輩方の様々な応援もあっての好成績ではなかったのでしょうか。先輩と後輩の絆が一段と深まった今回の「西医体応援キャンペーン」企画。ぜひ来年も「湖医会」で実行したいと思います。

さて、「西医体応援キャンペーン」は、体育会系に所属するクラブが対象でした。では、文化会のクラブには、何も支援はないの?いいえ、文化クラブの発表の場を若鮎祭と捉え、若鮎祭実行委員会と一緒にその支援方法を現在検討中です。キャンペーン内容が、決まり次第、会員の皆様にメールでお知らせいたします。その際には、「西医体応援キャンペーン」同様、ぜひご協力の程よろしくお願いいたします。

このように湖医会では「湖医会メール」で、会員の皆様には、様々な情報を発信しております。今後は、さらに実益のある有効な情報サービスの提供目指しますので、まだ「湖医会」事務局へメールアドレスを登録されていない方は、ぜひご登録ください。 先ずは koikai@koikai.org にメールを!

奈良への異動（鹿とともに暮らす）

市立奈良病院 外科

徳川奉樹（医12期生）



滋賀から奈良というと遠くに感じられる方も多いかと思いますが、京滋バイパス・京奈和道路を経由すると渋滞がなければ1時間半の道のりです。観光地化された古都京都とはまた違い、古きよき社寺が散在する街です。奈良に居住し1年半が経過しました。ようやく落ち着いてきましたが、転勤があるたびに家族共々引っ越しをしていて、子供の成長につれ子供たちにも迷惑をかけることが多くなってきました。（単身赴任も良いかなと思った時期もありますが、子供とは離れたくない気持ちが強く転々と引っ越しを続けこの5年で計4回になります。）昨年の滋賀県内からの引っ越しでは、6歳に成長した娘が友達との別れに心を痛めるのを見て、引っ越しが少しずつつらいものになってきたのを痛感しました。しかしそこは子供で「引っ越し先の近くの公園にたくさん鹿が、いるんだよ」との言葉ににっこりと笑顔で返してくれホッと一安心したのを思い出します。京都・大阪北部の郊外でも天然の鹿は時折見かけますが奈良ほど愛護されているのは他に類を見ないのではと思います。国の天然



記念物である奈良鹿は、それを知ってか知らずか、悠々と公園を越え車道を歩いています（初夏はバンビもたくさんいてかわいいのですが、親鹿は少々にくたらしい感じがします）。時には病院敷地内にまで入り込み草を食む姿を見るほどです。そんな鹿にも治外法権を思わせるほどのわんぱくなが息子たちにかかるただの餌付けの対象でしかないようです。そんな鹿と大仏さんに触れながら奈良に親しんでいます。

ここで勤務病院の紹介をさせていただきます。有名な猿沢池・興福寺の五重の塔を望むそんな場所に当院はたたずんでいます。3年前に旧国立奈良病院から現市立奈良病院として新しい道を歩み始め職員は地域医療振興協会に属すといった独特の体制をとりながら地域医療への貢献を目指しながらも高度医療化した医療に遅れをとらないようできる限り奈良の先端医療を目指しています。

私は外科に所属していますので当科を中心に紹介していきます。滋賀医科大学外科学講座の人事にて赴任しており滋賀医科大学出身者は私一人です。現在スタッフは院長先生を筆頭に京都府立医大外科の6名と私を含めた計7名で日々の診療にあたっています。外科といっても当院のような地域密着型の病院では切創・嵌入爪などの一般外科を始め胃癌などの消化器外科・肺がんなどの胸部外科・乳癌などの乳腺外科と幅広い診療を行っています。またこの4月からは外科の看板に加え患者ニーズの高まりに応じ

た形で乳腺センターが独立した形で動き始め手術症例数は年間150例に到達する勢いです。日常診療に必要なマンモグラフィ・超音波検査機器とともに検査機器ではデキサ（骨密度測定機器）・治療面ではリニアックを導入し充実を図っています。

私自身はというと乳腺センターの一員として乳がん治療に取り組んでおり化学療法（専属に近い薬剤師・専属看護師もいて大変お世話になっています）・手術と忙しい毎日です。外科分野では腹腔鏡手術を担当し結腸・直腸手術に取り組んでおり今後胃切除術へ発展させていきたいと思っています。

当院では前期研修・後期研修と受け入れ態勢が整っており、現在前期研修では6名（1年目2名・2年目4名）後期研修医では2名の先生が研修されていますが、実際には即戦力として日々の診療にあたっていていただく面でもとにも学んでいます。地域志向型指導医講習を終了された先生方も指導医の中には多くおられ、私も講習会終了者で研修体制は整っていると思います。

産婦人科医・小児科不足が叫ばれる中、医師数ワースト3の外科も存続の危機に直面しています。3Kいや9Kといわれる外科ですが、多くの充実感と達成感も得られる部署です。

少し遠い奈良から卒業生の研修希望をお待ちしています。

暑かった夏もようやく終わり、日ごとに秋の深まりを感じる今日この頃。先輩方におかれましてはますますご健勝のことと存じ、お慶び申し上げます。医療を取り巻く環境は日進月歩の勢いで変化していきますが、その中で何を学んでいくべきなのかを考え、我々学生一同は、先輩方の築いてこられた伝統を受け継ぎ、更なる飛躍を遂げることができるよう、精進してまいる所存であります。

さて、今年も若鮎祭の季節が近づいて参りました。今年で第33回を迎えます。例年テーマを設定し、その実現を目標に学園祭を行ってまいりましたが、今年はあえてそのテーマを設けることをやめました。その代わりに基本コンセプトとして「滋賀医大テーマパーク化」を掲げました。「テーマパーク」から想像する「愛・夢・希望」など、一人一人に十人十色なイメージがあると思います。それをテーマとして一つに定めるのではなく、できる限りのことを実行委員全員で実現していこうと決めました。

また、滋賀医科大学が、周辺住民の皆様、さらには県内の産業経済界などを含めた地域とのつながりを一層深める場としての「テーマパーク」になればと考えております。

今年も、特別講演会として、第6回「湖医会賞」受賞者の角野文彦先生と河野史代先生による受賞記念講演会を、滋賀医大同窓会「湖医会」との共催で企画しております他、ベシヤワール会代表の中村哲氏の講演会など、いろいろな催し物を企画しております。

一人でも多くの先輩方にお越しいただき、私たちの考える「テーマパーク」を感じてもらえるよう努力しております。お忙しい中とは思いますが、ご家族・ご友人など、お誘い合わせの上、是非足をお運びいただきたいと実行委員一同心から願っております。

若鮎祭実行委員長 山下真未

第5回「湖医会賞」受賞記念講演会

『湖医会賞』とは・・・研究や学生等の教育、地域医療等の臨床・介護福祉その他領域で優れた実践を行い、医学・福祉の向上に貢献した「湖医会」会員に贈られるものです。今年は4名が受賞され、第1部(10/27)と第2部(11/16)とに分けて記念講演が行われます。同窓生多数のご参加をお待ちしております。

10・27(土) 場所:基礎講義実習棟 2階 A講義室

『湖医会賞』授賞式 12:30～

『湖医会賞』受賞記念講演

12:45～ 角野文彦氏(医6期生、滋賀県東近江地域振興局地域健康福祉部長)

演題:「公衆衛生医の立場から滋賀医大に期待すること」

13:30～ 河野史代氏(医7期生、社会福祉法人信成会理事長)

演題:「夢に向かって」

一福祉事業者として、医師として、女性として、今までそしてこれから

メイン企画

11・16(金)場所基礎講義実習棟 2階 A講義室

『湖医会賞』授賞式 18:00～

『湖医会賞』受賞記念講演

18:15～ 植松稔氏(医2期生、厚地記念放射線医学研究所

UASオンコロジーセンター・センター長)

演題:「放射線ピンポイント照射と

私のセレンディピティ」

19:00～ 金谷誠一郎氏(医4期生、姫路医療センター

内視鏡外科医長)

演題:「胃癌の手術 最前線!ー腹腔鏡下胃切除ー」

☆映画上映☆ 場所:基礎講義実習棟 2階 B講義室

10・27(土) 10:30～「涙そうそう」、13:00～「ブラダを着た悪魔」

10・28(日) 10:30～「ドラえもののび太の日本誕生」、13:00～「シュレック」

☆講演会☆ 場所:臨床講義棟第3講義室(本会場)

※ただし参加者多数の場合、臨1・2をサテライト中継

10/27(土) 15:00 開場 開演15:30～17:30

「中村哲医師講演会」

☆フットサル・ソフトボール大会☆ 10・28(日) 10:00～17:00

ステージ企画

☆10/27(土)☆

10:00～10:30 開会式

10:30～12:00 KING of 店長決定戦!

12:00～15:00 軽音ライブ

15:00～16:30 King & Queen of Athlete(予選)

16:30～17:30 SUMSチャンプル

17:30～18:00 Mr&Miss中間発表

18:00～20:00 きんぐおぶえんたーていなーず

☆10/28(日)☆

10:00～11:00 アカペラライブ

11:00～11:30 バルーンアート

11:30～13:00 クイズ広場

11:30～12:00 模擬店CM

13:00～13:30 SUMSチャンプル2

13:30～15:00 ピンゴパング

15:00～16:30 King & Queen of Athlete決勝戦

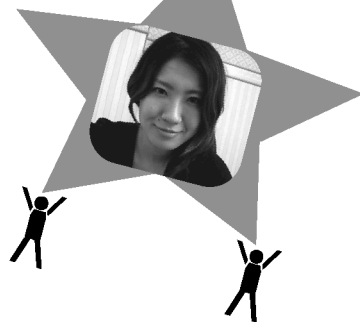
16:30～17:00 R.D.C

17:00～17:30 Mr&Miss発表

17:30～18:30 千鳥/ザ・プラン9/ジャンクショ

18:30～ フィナーレ

ぜひ、みなさん
見に来て下さい!!(委員長)





古川 顕 (医4期生) 滋賀医科大学放射線医学講座 准教授



1984年3月: 滋賀医科大学医学部卒業
 1984年6月: 滋賀医科大学放射線科 研修医
 1986年4月: 滋賀医科大学放射線科 医員
 1987年4月: 滋賀医科大学放射線科 助手
 1993年4月: 大阪府済生会野江病院放射線科 副医長
 1995年7月: 滋賀医科大学放射線科 助手
 (1995-1997) 米国Long Island Jewish Medical Center
 (Albert Einstein College of Medicine)
 2000年8月: 滋賀医科大学放射線科 講師
 2007年7月: 滋賀医科大学放射線医学講座 准教授

2007年7月1日付で、滋賀医科大学放射線医学講座の准教授を拝命致しました。私は、滋賀医科大学4期生で1984年に放射線科に入局しましたが、当時は、全身のCT診断がようやく普及しつつある時代でした。その後の20年間で画像診断は著しい進歩をとげ、診療における役割も大きく向上しました。MRIやPETが登場したのも私が入局した後のことであり、この急速な進歩の中に身を置けたことは幸運であったと思います。私は、主に腹部領域、特に救急疾患や消化管の断層画像診断、IVRに携わっています。放射線医学は臨床に密接な学問領域であり、私は日常診療に近い現実的、実践的な医学に関わりたくと考えております。新しい考え、技術、知識、そして過去の経験にもとづく知恵を交えて、診療、教育、研究に尽力をつくじたいと考えます。みなさまには、変わらないご指導をいただきますよう、よろしくお願い致します。

訃報

恩師、吉田吉信先生を偲んで

医仁会武田総合病院 山本嘉昭 (医2期生)

去る7月30日、吉田吉信滋賀医科大学名誉教授(元産科婦人科学教授)は、80歳の整然とした生涯を閉じられました。先生からいただいた沢山の恩恵と愛情を、多くの患者さん、スタッフ、研究者、スクリーナーに代わり厚く御礼申し上げ、謹んでご冥福をお祈りいたします。先生は、青春期を終戦と結核を病んだ未熟な若者、京都大学の助教授を経て、滋賀医科大学の建学に大きな貢献を果たされました。その間に多くの患者さんに豊かな愛情をもって接せられ、数え切れない人々を育て、しかも根柢からの研究好きで、好奇心の塊であり、質素な生活と整理整頓に優れた人物でありました。子供や人を育てることは、自らの死後の世界を考えての人生であり、その心は産科医師すべての目標であり続けたいと、恩師の死を見守ったもう一度肝に銘じるところであります。神の元で、今も顕微鏡を見る姿を思い浮かべ、さらなる発見をされることと期待いたします。

佐々木武先生のご逝去を偲んで

彦根保健所長 前田博明 (医1期生)

2007年8月23日、本学元保健管理講座の佐々木武先生が、83歳でご永眠されました。佐々木先生は、丸い顔でいつもにこにこされておられた、そんな非常に温厚な先生であられました。卒業前の頃に私は、僻地医療か精神科医療か、医療行政を目指していました。そして最終的に、佐々木先生に滋賀県庁の鎌田昭三郎課長をご紹介いただきました。それから、医療行政の道を進みました。ですから、私にとりまして、人生の大きな岐路に佐々木先生がおられたわけであり、退官後は京都の東山で奥様とともに保育園の経営に当たっていると年賀状で伺っておりました。佐々木先生のご冥福を心から謹んでお祈り申し上げます。

ご案内

同期会のお知らせ

- ★卒後20年は医学科7期生
2007年2月2日(土)開催
- ★卒後10年は医学科17期生
2007年2月16日(土)開催
- ★卒後5年は看護学科6期生
2007年2月9日(土)開催

若鮎祭模擬店

おとくチケット



10月28日(土)・29日(日)に行われる、『湖医会賞』授与式・講演会や総会にご参加いただいた会員に、若鮎祭の模擬店で使える“おとくチケット”を会場でお渡しします。
ご家族連れでお楽しみください。

2007年度 滋賀医科大学 保健師部会からのお知らせ

初秋の頃、保健師の皆様いかがお過ごしでしょうか。皆様は日々それぞれの現場でご活躍されていることと思います。今年度も恒例の保健師仲間との交流会を開催します。是非ご参加ください。

日時: 平成19年12月8日(土)

受付: 17時45分～ 開宴: 18時～

場所: Dinning SE・SA・MI (京都駅前)

会費: お一人様 5,000円

お知らせ

「湖医会」カード(VISA)からの同窓会年会費は10月中旬以降に自動引き落としとなります。一般VISAカードからも同様に、会費の引き落としは可能です。



総会の 委任状はメールで!

... e-mail: koikai@koikai.org

ご協賛
ありがとうございます

杏林製薬株式会社 / 扶桑薬品工業株式会社 / アルフレッサファーム株式会社 (順不同)